

# 2024年度 シンポジウム

金沢大学は文部科学省事業「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」を受託し、北陸地域のさまざまな機関と連携して課題に取り組んでいくため、連絡協議会を設立します。これにあわせ、シンポジウムを開催します。  
日本語教育にご興味をお持ちの方なら、どなたでもご参加いただけます。

対面  
オンライン  
併用

- プログラム** 受付開始 13:30
- 14:00-14:05 開会挨拶 金沢大学長 和田隆志
- 14:05-14:35 「日本語教師養成・研修推進拠点への期待」(仮題)  
今村 聡子氏(文部科学省 総合教育政策局 日本語教育課長)
- 14:35-15:15 「外国につながる生徒の支援事例から考える包括的な教育・支援の形」  
芳川 舞氏(金沢大学) 近藤 延蓬氏(北陸大学) 市嶋 典子氏(金沢大学)

日本全国の学校教育において、外国につながる生徒の在籍数は年々増加している。外国人住民の集住地域では各県・各学校で独自の教育・支援体制を実施しているが、散在地域では未だ教育・支援拡充の動きが十分とはいえない。しかし外国につながる生徒が散在している石川県内では少しずつ支援の広がりを見せている。今回は石川県の高等学校で実際に独自の支援を実施している事例を紹介するとともに、当事者である大学生に自身が経験した高校生活を振り返ってもらう。以上の内容から、外国につながる生徒の教育の現状やこれからの課題について探っていく。

- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-17:30 「福井県立足羽高等学校の多文化共生科における  
外国人生徒と日本人生徒との協働的な学びを支援する学校環境づくり」  
岡崎 普記氏(福井県立足羽高等学校 AIS同好会顧問)

足羽高校では、近年の外国人居住者の増加に伴い、日本語コースを新設し、生活支援、学習支援、進路支援においてさまざまな新しい取り組みを行ってきた。具体的には学校設定科目での日本語の授業の設置、ガイダンスや通訳の設置、進路開拓などがあげられるが、その中でも特に日本人生徒と外国人生徒とが協働で学び合う英語の「合同授業」や、協働で地域のボランティアを行う「AIS同好会」を新設することで、校内の多文化共生を推進することができた。こういった外国人生徒と日本人生徒との協働的な学びを支援する学校環境づくりを具体的にどのようにシステム化していったか、またどのような効果があったのかを事例をもとに検証する。

**日時** 2024年 11月4日(月) 振替休日 14:00-17:30

**開催形態** 対面(金沢大学) 及び オンライン(Zoom)

**会場(対面)** 金沢大学 角間キャンパス 人間社会第1講義棟 301講義室  
\*北鉄バスでお越しになる場合は「金沢大学」でお降りください。  
\*車でお越しになる場合は、PまたはC駐車場をご利用ください。

**お申し込み** 下記ページから申し込みフォームにアクセスしてください。  
<https://jlt.w3.kanazawa-u.ac.jp/news007.html>



申し込み〆切  
10/30(水)

**お問い合わせ** 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(中部ブロック・金沢大学)  
事務局 contact@jlt.w3.kanazawa-u.ac.jp